

国際保全パートナーズ

UAPACAA

Unified Action for Promoting Animal Conservation in Asia and Africa

459-1-201 Nagae, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa 240-0113, Japan
Phone: +81(70)4486-6609

2022年度上半期(2022年8月～2023年1月)事業報告

法人の名称 NPO法人UAPACAA国際保全パートナーズ

<ハイライト>

- ・地球環境基金「つづける助成」による、コンゴ民主共和国(DRC)のボノボエコツアー復興活動始動。NPO法人 Mbou Mon Tour (ボー・モン・トゥール; MMT) と委託契約締結、プロモ・イベント開始。
- ・昨年度に続き、一般財団法人日本国際協力システム JICS NGO 支援助成、基盤強化に採択された。2023年度のインターン(アシスタント)人件費補助を中心に100万円が支給され、広報強化を継続。
- ・11月～12月に、READYFOR でカメルーン・ロベケ国立公園密猟対策支援のクラウドファンディングを実施。2022年内入金で約5週間の緊急募集を行い、“All in”方式で目標額600万円に対し377.5万円が集まった(<https://readyfor.jp/projects/Lobekepontcasseprotection>)。
- ・今年度より海外渡航が可能になり、8月～9月の1カ月、岡安が生薬プロジェクトとロベケ国立公園現地視察のため、カメルーンへ出張。また2月には、岡安と山口がDRCボノボプロジェクト訪問予定。
- ・2022年10月17日にオンライン(Zoom)理事会を開催し、理事6人の出席(1名は書面表決)を得て成立。2021年度(2021年8月～2022年7月)事業報告と決算に承認を得て通常総会に上程した。
- ・理事会の表決に従いみなし通常総会を開催し、正会員15人全員の賛成を得て、2021年度事業報告と決算報告が承認された(2022年10月24日)。

<事業活動方針にかかる報告(2022年8月～2023年1月分)>

カメルーン、ブータン、およびコンゴ民主共和国(DRC)の連携先と自然保護プロジェクトを推進する。

「2 事業内容」に沿って、以下に報告する。

① 自然保護におけるポスト・コロナ対策事業

- ・2020年度より継続中の感染症対策「生薬事典プロジェクト」の、カメルーンチーム第1弾報告会を、岡安が渡航中の9月23日に実施。武田漢方医のオンライン出席を得て、内容検討。
 - 植物種数の絞り込みの結果、5種が生化学分析対象となったが、薬効成分には大きな違いが検出された(カメルーンでは広くハーブティーとして利用されているものが最も高かった)。
 - 分析第2段階の、植物の混合や薬用加工技術の確立に向けて、覚書を修正し資金送金した。
 - プロポリスは高需要の影響で4サンプルしか入手できず。しかも薬効成分に大きな差があることが判明した。元植物の成分変化を調べることで高品質のプロポリス生成に結びつく。
 - 偶然、ロベケ国立公園で地場産業として養蜂業の導入を開始しており、ここにプロポリス生産を加えることで、さらに付加価値を生む活動を起案。2022年度 JICA 草の根事業に提案。

② アフリカ熱帯雨林の保全と野生動物保護支援に関する事業

ア カメルーン共和国南東部州の大型類人猿と生物多様性の保全活動

1. ロベケ国立公園の大型類人猿エコツアーリズム振興支援
2. ロベケ国立公園生物多様性モニタリング

3. 国際武装集団によるゾウ密猟対策への支援

- ・ 9月のロベケ国立公園視察では、エコツーリズム復興に向け施設整備が進んでいた。ただし、過去2年半のビジター数4人と大幅な落ち込みで、現地ガイド等ソフト面の受け入れ態勢の立て直しが必須。
- ・ ゴリラの人づけについては、Pont Casse地区のトランゼクト・モニタリングが資金難で放棄されており、ここからプチ・サバンナにかけての重要地域の密猟防止のために、資金調達と再開が急務となっていた。
- ・ プチ・サバンナには、10年来初めてマルミゾウが多数戻ってきており、この保護のためにも上述のモニタリング・ポスト再開が鍵であった。そこで、帰国後、過去のロベケ支援の預かり金100万円を送金するとともに、支援者向けのアピールなどを開始。また、12月には前述のクラウドファンディングを実施した結果、2023年から現地への資金的・技術的支援を継続できる目処が立った。

イ コンゴ民主共和国（DRC）マイ・ンドンベ州ボロボ郡におけるボノボの保護活動

1. ボノボ生息域における生物多様性保全・再生にかかる研究と実践

- ・ 前述の2022年度地球環境基金の「つづける助成」で、エコツアー復興活動開始。8月に交わした委託契約により、MMTによるプロジェクト普及啓発とエコツアー人材育成プログラムを現地で実施した。
- ・ 同時に、日本でのバーチャル・エコツアーにも繋げる、オンライン・イベント・シリーズを11月から開始。徐々にリアル・エコツアーに向けたターゲットの絞り込みを試みている。

2. ボノボ生息域に居住するコミュニティの地場産業開発を通じた生物多様性保全

- ・ 2.の活動は現段階ですぐに展開は難しいが、1.のエコツアー復興を軌道に乗せつつ、カメルーンで継続予定のプロポリス・プロジェクトの応用を図り、付加価値の高い複合的な地場産業創出に繋げたい。

② 南アジアの亜熱帯林保全と野生動物保護支援に関する事業

ア ブータンの生物多様性保全、特に南部国境地帯を生息地とするアジアゾウ保護

1. TraMCA ランドスケープにおける人とアジアゾウの衝突回避に向けた支援

- ・ アジアゾウ保護に向けた大型プロジェクトは、外部協力者からの資金調達の目途が立っていない。
- ・ 2022年の寅年にちなみ、タイガーモブ株式会社が年間を通じた寄付調達スキーム「行くぜ！トラフェス2022」を立ち上げた。この一環として、WWF ブータンも巻き込んだ「WILDLIFE ACTION 3」を、7月29日の「Global Tiger Day」を皮切りに共催。収益はブータンのトラレポート出版に活用する予定。

アフリカやアジアの生物多様性保全に関する情報発信を行い、国際保全活動の普及啓発に貢献する。

- ・ 4月から着任したアシスタントが、アフリカの現場経験に基づくリアルな記事発信を補佐している。
- ・ 自前の情報発信による知名度向上を目指し、SNSにFacebookとツイッターに加えてInstagramとLINEを追加。このIG発信担当に9月から若手のプロボノが加わり。質と頻度が上がった。
- ・ 会員専用メルマガの発行回数が月1回を確保するよう努めているが、UAPACAAウェブサイトのセキュリティ上、アフリカ滞在中にアクセスできないという難点があり、今後の課題として浮上している。
- ・ 年末のクラウドファンディングの傾向が、過去の2回や自前のドネーションアピールとまったく違う展開となり、資金調達に係る情報発信の頻度や内容、利用するツールについて新たな知見を得た。

<その他の事業>

① 書籍の出版・販売

海外出張も再開され、その対応に時間を取られるため、今年度は行わない。

※ 上半期予算進捗（2022年8月～2023年1月）に関して、中間決算報告書を添付する。 以上